

学校名	武雄市立東川登小学校
1 前年度 評価結果の概要	・「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいいがたい。継続して授業改善に取り組む。 ・「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。「学校が楽しい」と答えることができなかった子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 ・今後も年間を通して支援・配慮を意識した指導や研修を充実させ、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ・ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。
2 学校教育目標	自ら気づき、考えて、行動する子どもの育成 ～やさしく かしく たくましく～
3 本年度の重点目標	認知能力と非認知能力の一体的な育成

4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ○家庭教育の充実	○「学年に応じた課題を見つけ、解決する方法を考え、課題を解決することができた」と答える児童が80%以上。 ○「授業を通して、学習内容が身についたと思う」と答える児童が80%以上。 ○「家では、決められた時間は学習している」と答える児童が80%以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で話し合う活動を設定するとともに、タブレット活用により学習の個性化を図る。 ・児童による授業評価を年に2回行う。 ・自学展を高・中・低と行うことで、内容の充実を図る。 ・低・中・高学年別に系統性をもたせ、家庭学習の充実を図る。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●「人の気持ちに気づき、寄りそう」「自他のよさを認め合い、成長を喜び合う」「感謝の気持ちが育つ」ための教育活動	○「相手の気持ちを考えることができる」と回答した児童90%以上、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上。	・個と集団への働きかけを通した発達支援の生徒指導を行う。 ・地域の方々との交流活動やふれあい道徳を実践し、人権教育との相互充実を図る。 ・児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動をより主体性をもたせた取組として改善・充実を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しい」と回答した児童90%以上。	・Q-Uアンケートや生活アンケート、教育相談週間の活用を通して、いじめに対する迅速かつ組織的対応の徹底を図る。 ・たて割り班活動の充実を図る。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、育みたい資質・能力を焦点化する。 ・教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践し、キャリアパスポートを活用する。
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①週3回以上外遊び(体育や社会体育を含まない)をしている児童が80%以上	・健康委員会が放送などを通して、児童へ外遊びの推奨・啓発を行う。 ・教師が声掛けをするなど、外で遊ぶ機会をつくる。 ・保健便りを通して、家庭へ外遊びの推奨・啓発を行う。 ・熱中症対策の推奨・啓発を行う。 ・夏季の外遊びは、熱中症対策を優先する。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上(年間15日の職員は10日以上)	・会議などの話し合いを効率的に行い、事務作業の時間を確保する。 ・会議や行事等の精選を行い、年休取得可能な日時の確保を目指す。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性の向上を目指す教育活動に努め、支援が必要な児童に対し適切な合理的配慮を行うことができたと回答した職員90%以上。	・特別支援教育に関する研修会を実施する(2回)。 ・気になる児童の報告を毎週1回行い、情報共有する。また、状況に応じてケース会議を開催し、関係者間での情報共有を行い、支援をする。 ・個別的教育支援計画に沿い、合理的配慮を行う。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○郷土への愛着を高める教育	○ふるさと「東川登」の「ひと、もの、こと」を誇りに思う教育活動の充実	○地域への好意的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 ○「地域と連携した教育活動を推進している」という保護者及び職員の割合を70%以上にする。	・生活科・総合的な学習の時間と関連させてゲストティーチャーを招くなど、地域の特色を生かした学習の充実を図る。 ・地域の協力者には感謝の気持ちを伝え、双方向の活動にする。
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--